

市民病院だより

薬を飲むタイミングについて

薬剤師 畑野 瞳

病院から薬を処方された時などには薬の用法・用量が書いてあります。今回はこの「用法」についてお話しします。

用法とは

用法とは薬を飲むタイミングのことです。1日1回朝食後、1日3回毎食後、食直前、食直後、空腹時、朝起床時など、さまざまな用法があります。これらは適当に決められているわけではなく、医師が安全性と薬の効果が最大限に発揮されるタイミング、さらに、薬を飲む人の利便性を考えて指示を処方箋に書きます。

用法の決め方

例えば、風邪を引いた時などに処方される抗生物質も種類に

とで身体に大きな影響を与える薬もあります。

よって用法が異なります。1日1回で十分なものがあれば、1日3回飲まないと効果が十分にでない薬もあります。医師が診察をして患者さんの体調や状態を考え薬の種類と用法・用量を決定します。

また、漢方薬は空腹時に飲むと一番効果が出るので、基本的に食間（食後2時間）もしくは食前に指示を出されることが多いです。ただし、食後に服用しても問題は無いので、食後に指示を出される場合もあります。

飲み忘れてしまった場合

万一、飲み忘れてしまった場合、慌てて飲むのは大変危険です。漢方薬のように空腹時（食前・食間）でも食後でも影響が少ない薬もありますが、飲むタイミングが医師の指示から外れるこ

例えば、速効型インスリン分泌促進薬と言われる糖尿病の飲み薬は飲んでから15〜30分くらいで血糖値を下げる効果が現れ、60分くらいで薬の効果が最大限に発揮されます。そのため、この薬は食後ではなく直前に飲むなければ血糖値が下がり過ぎて危険な状態となる可能性があると考えられています。

このように薬を飲むタイミングが医師の指示から外れることで、非常に危険な状態になるとがあり注意が必要です。

薬は医師の指示に従って飲むことが基本です。もしも、何らかの理由で飲むことができなかった場合には薬ごとに対処方法が違いますので、薬を処方された医療機関などに確認をお願いします。



小児科だより

みずぼうそう

(水痘)

水痘・带状疱疹ウイルスによる感染症です。空気を介して感染するのでとてもうつりやすいです。

発疹が全身に出ますが、はじめは赤いぽつぽつで、次第につぶれやすい水泡になり、黒いかさぶたになっ

ていきます。全ての発疹がかさぶたになるまでには、人につつすので、学校や幼稚園は行けません。かゆみが強いので、かいて、つぶしてしまうと、とびひになりやすいので、かかせないようにしましょう。そのため、かゆみを抑える飲み薬や塗り薬を使います。みずぼうそうの薬ははじめの1〜2日で飲むと症状が軽くなります。水分が摂れなかったり、ぐったりする場合は早めに受診しましょう。



お知らせ



当院小児科で、スギ花粉症の舌下免疫療法（対象は12歳以上）を行っております。また、小児科一般診療、予防接種などもお気軽にご来院ください。

木曜日の夕方診療（18時30分まで受付）もご利用ください。

【問合せ】小城市民病院 ☎ 73・2161 ホームページ・アドレス <http://www.city.ogi.lg.jp/hospital/>